（法第２８条第１項関係）

# 令和２年度事業報告書

令和２年４月１日から令和３年３月31日まで

認定特定非営利活動法人キャリア・デザイナーズ

１　事業実施の成果

コロナウイルスの感染が世界中で拡大する中、皆様のご支援やご協力をいただきながら事業を実施した。コロナ感染対策として、三密（密集・密閉・密接）の防止、アルコール消毒や換気の徹底、毎日の体温検査等を行った。実施した事業概要については以下の通りである。

(1) 郡山市受託事業「多様な働き方支援事業」
(2) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」
（社会参加の一環として、シニア・ボランティアとともに共同の軽作業／交流会の実施）
(3) 郡山市の農福連携推進モデル構築事業への参加
(4) ニート・ひきこもりの就労自立トレーニングの場としてのカフェ運営事業
(5) 農作業＋お試しカフェによるひきこもり支援事業
（休眠預金活用事業として、農作業体験、料理教室・お試しカフェ研修、大規模セミナー、保護者会を実施）
(6) 自主事業（ジョブトレーニング、御用聞き、居場所活動等）
(7) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化

それぞれについて以下に述べる。

**(1)　郡山市事業「多様な働き方支援事業」**

郡山市多様な働き方支援事業の目的は、郡山市を含む「こおりやま広域圏」の不安定就労者、就労困難者及び就労支援希望者を対象に、社会参加と生活基盤安定のため、カウンセリングや職業的自立に向けた就労支援を行うことにより、個人の適性や意欲に応じた多様で柔軟な働き方ができるよう職業的自立に結び付けることである。

当法人として当事業は３年目の受託となった。今までの経験を生かし実施をした。

対象者やその家族の相談を受けた後、当事業への参加が妥当と判断した方（実人数30名）について、定期的なカウンセリングを行った。加えて、地元の企業に協力をいただき就労体験（7 事業所で実施）、就労準備のための講座（通称「エンカレッジ講座」、パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションのワーク、シニア・ボランティアによる人生講話等）を行った。コロナ対策に気を付けて実施した。カウンセリングでは、今年度初めてWEB会議システムを活用した。当事者だけでなく家族に対するフォローも随時行った。

参加者のアンケート回答は次のようなものであった。

■「就労する自信がついたか」

・かなりついた：11%
・ままあついた　：63%
■カウンセリングについて（自由記載）
・仕事の悩みを相談したときに親身に聞いてアドバイスをしてくれたので、少しホッとしたからです。
・親身になっていろいろな相談ができたので感謝です。
■講座（パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーション等）について（自由記載）
・（パソコン）皆でパソコンを勉強するなどして一緒にしている感じが良かった。
・（ビジネスマナー）職場での電話応対や伝言をメモするのに学んだことを活用しています。
・（コミュニケーション）自分以外の人とのコミュニケーションをとるときに参考になった。
■就労体験について（選択式、複数回答）　回答者 12 名
・働く意欲がわいた　　55%
・体力がついた　　45%
・生活リズムが整った　36%
・自分の適性が分かった　36%
といった回答があった。

**(2) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」**
**（4 月から 6 月までは自主事業、7 月よりパブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成により実施）**

昨年に続き「ふくしま未来基金」助成により実施した。事業の基本的な考えとして、人と一緒にいることが難しい、あるいは、コミュニケーションに不安がある等不安を抱えている方々が、安心した環境の中で他者との交流を深めてスムーズに社会参加できるようになること、また、より実践的な就労支援活動に参加できるようになることを意図して次の活動を行った。

① コ・ワーク（ボランティアの方と共に内職軽作業の実施）

相談をした直後の方、通い始めの方、他者と話す事に不安を持っている方等を対象に、職員やシニア・ボランティアらとともに事務所内で軽作業を行う活動を行った。他者と一緒に軽作業を楽しくすることで、社会とのつながりや通所習慣の確立による社会参加を意図して実施した。同事業に参加した後に、より実践的な活動（講座やジョブトレーニング）に参加する方も見られた。

② 交流会

季節ごとに、バーベキュー、クリスマス会、新年会、郡山市「みんなの市民活動交流フェスタ」参加等の交流会を行った。バーベキュー会やクリスマス会といったイベントでは、基本的に利用者（メンバー）が司会、ゲーム、調理の各班に分かれて担当した。有志でイベントの 1 か月前ぐらいからミーティングを重ねて準備をした。例年であれば、ボランティアや協力者をお招きして交流を深めていたのだが、今年度はコロナ禍ということもあり利用者と職員に参加者を限定し、コロナ対策を徹底しながら行った。交流会当日や準備を通じて、他者と協力する大切さを実感し、協調性や社会性を養う機会となった。

**(3) 郡山市の農福連携推進モデル構築事業への参加**

郡山市事業の「農福連携推進モデル構築事業」を受託した「公益財団法人フィランソロピー協会」の協力団体として、前年度に引き続いて農福連携事業に参加した。農業と福祉事業所の間のコーディネートのサポートのほか、当法人の利用者が実際にジョブトレーニングの一環として農業に参加する機会もあった。郡山市やその周辺の農業者や福祉事業者とのつながりも強化することができた。郡山市で農福連携事業が根付くように今後も協力できればと考える。

**(4) ニート・ひきこもりの就労自立トレーニングの場としてのカフェ運営事業**

企業からの寄付金により、ニート・ひきこもりの方が安心して社会参加をし、就労自立に向けてのトレーニングを行う場として週 1 回のカフェ開設を目指して実施。しかしながら、コロナ禍でカフェを実際に一般に開くことが難しい状況となってしまった。カフェ開設のために必要なことについて学ぶ研修を実施することにした。合計 32 回実施した。最初は、職員研修として、カフェ経営者から直接教えていただいた。その後、対象者の若者らも交えて、カフェや焙煎所を実際に経営している方や元喫茶店経営者の方を講師に招いてコーヒーや紅茶の淹れ方について学んだ。また、農福連携により収穫された農作物を活用してのメニュー開発や試食会を行った。イベントに出店をしてデザートの作成・販売・接客も行った。

**(5) 農作業＋お試しカフェによるひきこもり支援事業**

（休眠預金活用事業として、農作業体験、料理教室・お試しカフェ研修、大規模セミナー、保護者会を実施）

休眠預金活用による民間公益活動として実施した(資金分配団体:一般財団法人ふくしま百年基金、指定活用団体 : 一般財団法人日本民間公益活動連携機構)。コロナ禍の中で、社会とのつながり維持や孤立孤独の防止に寄与できるようにすると共に、若者の置かれている状況について地域の方々に理解を深める機会を設けること、そして家族へのフォローである。具体的には次の 3 つの活動である。

① 農作業体験：地元の農業者のご協力をいただき、また借りている市民菜園にて農作業を実施。

② お試しカフェ研修

上記の（4)「ニート・ひきこもりの就労自立トレーニングの場としてのカフェ運営事業」の基盤を活用し、料理教室やお試しカフェを行った。

③ 大規模セミナー

桝田智彦氏（臨床心理士）を講師に招いて、令和 3 年 2 月 6 日(土)に「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」を開催した。休眠預金活用事業とともに、赤い羽根共同募金助成をいただき実施することができた。共催団体として、地元企業の福島県中小企業家同友会郡山地区、社会福祉法人郡山コスモス会、コスモス通り心身医療クリニックにご協力をいただいた。若者の置かれている現状や、子らへ接し方や声掛けについて理解を深めることができた。

④ 保護者会

合計 2 回実施した。令和 2 年 9 月 26 日(土)自主事業として実施、令和 3 年 3 月 6 日(土)休眠預金活用により実施した。

令和 2 年 9 月 26 日(土)は、講師に社会福祉法人郡山コスモス会の石塚会長（精神保健福祉士、

社会保険労務士）を招いて、雇用環境や親と子の接し方についてお話していただいた。参加した保護者からは「石塚先生の話や活動紹介、保護者同士の意見交換などとても有意義だった」などの感想が寄せられた。

令和 3 年 3 月 6 日(土)は、休眠預金活用の公益事業として開催した。清水国明氏（NPO 法人明日飛子ども自立の里　理事長）の講話を聴いた。その後、講師、保護者、職員らが意見交換や情報共有を行った。参加した保護者の方からは「親としての心構えを知ることができました。一人一人違うと思いますが、皆さんの話が聞けて良かったです」といった感想があった。

**(6) 自主事業（御用聞き、ジョブトレーニング、居場所活動等）**

①　御用聞き事業

地域の高齢者世帯など地域で困っているご家庭のご依頼に応じて作業をし、ニートやひきこもり経験者の社会参加・自立支援の一環として行っている。1 年目は損保ジャパン興亜日本福祉財団の助成により、2 年目は郡山市協働政策提案制度の事業として、そして 3 年目はクラウドファンディング等の活用、そして昨年度と今年度は寄付や受益者の負担により自主事業として実施した。これまで実施したお宅からのリピート依頼や、連携町内会からの紹介、口コミにより、高齢者のみ世帯などで困っているお宅の困りごと（草むしり、物の運搬）のお手伝いをした。コロナ禍の影響のせいか新規に実施するお宅は少なかったが、今までに実施したお宅からの依頼により実施することができた。

「御用聞き事業」を楽しみにしている若者も多い。除草してきれいになった状態を見ると達成感を得られると話す。高齢者の方ら地域の方との温かい交流を通じて、若者の社会参加・自立支援の一歩として地域に根差した活動を展開することができた。

②　ジョブトレーニング

郡山市事業や民間助成の規定回数を超えてトレーニングを積みたい方向けに、自主事業でジョブトレーニングを実施した。地元企業の協力を得て、ジョブトレーナーが利用者を引率して現場に赴き、原則チームで共に作業を行う形でのトレーニングを行った。自主事業として、年間 395 回、参加者 1,083 名（実数 22 名）であった。中長期的な視点での参加を通じて、就労に必要な体力をつけること、日常生活リズムの改善、他者と協力して活動することに慣れる、働いていく上での自信や自己肯定感の向上につなげることができた。ジョブトレーニングと、その他の活動、例えば、講座やカウンセリングがそれぞれ連動した形で行うことができるよう意識した。例えば、ジョブトレーニングで明らかになった課題について、カウンセリングの際に自己の考えを深める材料とするなど、それぞれの活動がお互いに相乗効果がでるようにした。

③　居場所活動

通所習慣や人と一緒にいることに慣れることを目的に、ゲームやレクリエーションをする活動を行った。就労準備の講座を午前に行い、その日の午後に、外部講師を招いて、原則毎週木曜日の午後に、外部講師を招いて、希望者を対象にゲームやレクリエーションをする活動を実施した。卒業生がアシスタント役として参加し、雑学コーナーを担当する姿も見られた。他の人とともに一緒に過ごし、楽しく場を共有することに慣れる機会となった。

**(7) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化**

① 地元企業団体との連携

福島県郡山市中小企業家同友会に引き続き加盟した。同会の障がい者や就労困難者の雇用について考える「障がい者委員会」にも参加した。同会の会報や地区報で当法人の取組について取り上げていただいた。さらに、上記でも述べたように、令和 3 年 2 月には同会郡山地区との共催で、若者が置かれている現状についてのセミナーも開催することができた。一般の方や企業の方に理解を深める機会となった。今回のセミナーでは、今までのリアル開催に加えて、WEB 会議システムも併用しての「ハイブリット方式」となった。同方式での開催について、同友会事務局には多大なご協力をいただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。

② 内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」への参加

内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」事務局からの加盟招待を受け、令和 2 年 11 月に同プラットフォームへ参加した。同プラットフォームは、国連が提唱する世界の共通目標である「SDGs（持続可能な開発目標）」の国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として、内閣府が設置したものである。当法人でも SDGs の理念である「誰一人取り残さない」という考えに沿って、SDGs の 17 ゴールのなかでも、特に、「ゴール 8（働きがいも経済成長も）」、「ゴール 4（質の高い教育をみんなに）」、「ゴール 1（貧困をなくそう）」を意識して事業実施を行っている。引き続き、多様な幅広い個人・団体と連携して事業を展開していきたい。

③ 地元の子ども若者支援団体との連携

昨年に引き続き、郡山市内の子どもや若者の支援をしている個人・団体で構成される「子ども若者ネット」に参加した。基本月 1 回、車座会議に参加した。課題が複雑化する中でお互いに情報交換や共有をすることができた。

**【総括】**

今年度の事業報告として総括を述べたい。上記の活動を 1 年実施するなかで、利用者がそれぞれ成長している姿が見られた。農業法人での就労体験・ジョブトレーニングがきっかけで、その農業法人に雇用されたケースもあった。利用者の中では、当法人の活動を経て、ハローワークの職業訓練を受講している方や就職活動を始めた方もいる。活動に参加した後、半年ほどで就職が決まった者もいるが、数年もかかる場合もある。息の長い支援が必要であることを改めて感じることとなった。就職した後も就労定着のサポートを随時行った。会社に就職するだけでなく、それぞれの方の意欲、および特性や適性に応じた「多様な働き方」ができる伴走者としてサポートできるように意識して行った。

当法人の活動を経て就職が決まった方の中には、仕事の休みの日に活動に参加しているケースもある。また、不定期ではあるが、休みの日に事務所に遊びに来る、あるいはイベントなどの活動のお手伝いをするといったケースも見られた。コロナ禍の中で仕事のシフトが減ったといった方もいる。そういった方が仕事の合間や休みのときに活動に参加して、ついでに現状についての話や悩み等の相談をするというときもあった。仕事場や家族以外での通える場所あるいは話せる場所として、結果的に就労定着の点でフォローアップとしての側面としても機能している。さらに、現在通所している利用者にとっても、当法人の活動を経て仕事にがんばっている「卒業生」の姿は、ロールモデルとして大きな刺激となっている。

当事者だけでなく保護者への相談・カウンセリング、保護者会の開催を通じて、対象者本人のみならず、保護者の不安軽減、対象者本人の自立へのサポートをすることができた。

●ボランティアについて、

対象者が相談後に実際に活動に参加する際に、負荷の少ない安心した環境での導入がとても大事になってくる。今年度も、事務所での内職作業や交流会などでボランティアのご協力を得ることができた。特に、人生経験が豊かなシニア・ボランティアとともに事務所での軽作業をしながら温かい交流をすることで、活動に定期的に参加した後に実践的なトレーニングに移行できる者が見られた。

シニアを含むボランティアが、農福連携事業のサポートとして、福祉事業所の参加が手薄となる繁忙期の土日を中心に、農福の現場である畑で農作業を行った。農福連携事業が円滑に進むことに寄与できたのではないかと考える。同時に、ボランティア同士のつながりや交流の場ともなった。そのほか、当法人で借りている市民菜園の畑作業のサポート、カフェ研修へのお手伝いなど、ボランティアの皆様にご協力してもらうことで事業を円滑に進めることができた。

●郡山市「まちづくりハーモニー賞」の受賞について

「地域の特性や市民力を生かした創造性豊かな活動を行い、魅力と活力あるまちづくりに先導的または先進的な役割を果たしている」として、郡山市より令和2年度郡山市市民活動推進顕彰事業「まちづくりハーモニー賞」を受賞した。これも日々の皆様のご支援・ご協力のおかげだと感謝申し上げたい。

今年度の報告のまとめとして、コロナ禍のなかで1年間無事に事業実施できたことに協力者や関係機関の皆様に改めて御礼を申し上げたい。本年度の事業と今までの経験を踏まえ、次年度以降も、組織の基盤強化を図りながら、当事者に寄り添った伴走者としてより良い支援活動を継続的に実施していきたい。

2　事業の実施に関する事項

I. 特定非営利活動に係る事業

（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動

| 事　業　名<br>（定款に記載した事業） | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額<br>（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| （1）就労に係る相談業務及び就労支援活動<br>①　相談業務 | 郡山市多様働き方支援事業のうち、対象者の把握及び就労相談に関すること、及びキャリアカウンセリング<br>郡山市及びこおりやま広域圏内の就労困難者や不安定就労者等の社会参加や就労に関する総合相談及びカウンセリング | (A通年（随時）<br>(B)事務所<br>(C)職員4名（キャリアコンサルタント） | (D) 郡山市及びこおりやま広域圏内の対象者及びその家族<br>(E)年間 257 回（インテーク相談57回、カウンセリング 200回）、実人数 48名 | |
| | 相談（自主事業）郡山市及びこおりやま広域圏以外の対象者（ニート、フリータなど） | (A)通年（随時）<br>(B)事務所<br>(C)職員4名（キャリアコンサルタント） | (D)郡山市内在住の対象者及びその家族<br>(E)対象の若者、就労困難者　随時実施 | |
| ②　講座 | 「就職活動の実施に向けた準備段階の支援」(コミュニケーション、パソコン、ビジネスマナー等の講座（エンカレッジ講座））<br>自主事業（4～5月）及び郡山市事業(6月～翌年3月) | (A)通年　原則毎週木曜日開催　年間32日実施<br>(B)公益財団法人安積歴史博物館、公民館、当法人事務所<br>(C)スタッフ 4 名（うちキャリアコンサルタント 3名)、外部講師2名 | (D) 対象の若者、就労困難者<br>(E)毎回人数 6名～10名　実人数 17 名（延べ319名）参加 | |
| | 当法人利用者向けのパソコン特別講座<br>（word,Excel,Web サイト作成、css など） | (A)通年<br>（毎月第 2、4、5 土曜日）<br>(B)当法人事務所<br>(C)外部講師1名 | (D)対象の若者<br>(E)毎回 2～3 名程度参加 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ③ ジョブトレーニング | 「郡山市多様な働き方支援事業」内の就労困難者や不安定就労者等の就労体験 | (A)通年<br>1 日につき 3～4 時間程度　111 回実施<br>(B)就労体験受入事業所 7 社<br>(C)職員 6 名 | (D)対象の就労困難者<br>(E) 実人数 16 名（延べ 148 名）参加 | |
| | 就労体験（ジョブトレーニング）（自主事業） | (A)通年<br>（週 4 日程度）<br>1 日につき 3～4 時間程度　年間実施回数　395 回実施<br>(B)就労体験受入事業所 16 事業所（スポット作業含む）<br>(C)職員 8 名 | (D)対象の若者<br>(E) 毎回 1～4 名程度参加<br>実数 22 名（延べ 1,083 名）参加 | |
| | コ・ワーク事業<br>無業者の社会参加、通所習慣を身に着けることを目的に、事務所での内職などの軽作業をボランティアの方と行う活動を実施。<br>4～5 月はパブリックリソース財団「令和元年度ふくしま未来基金」、6 月～7 月は自主事業、8 月から翌年 3 月までは、「令和 2 年度ふくしま未来基金」助成により実施。 | (A)通年、原則週 1 回、年間 57 回実施<br>(B)事務所<br>(C)職員 7 名 | (D)対象の若者<br>実人数 22 名（延べ 425 名）、地域の人々、ボランティア 4 名（延べ 121 名）<br>(E) 毎回 8～10 名程度参加 | |
| | 御用聞き事業<br>高齢者のみ世帯など地域の困りごと世帯などの除草・お宅の不要物の運搬などの活動、<br>（ニートひきこもりなどの無業者の社会参加、地域の方との交流、自己肯定感向上を目的） | (A)通年　年間 15 回実施。受益者負担や寄付による自主事業として実施<br>(B)郡山市内<br>(C)職員 5 名 | (D)対象の若者、地域住民<br>(E)当法人の利用者　実人数 9 名（延べ 43 名） | |
| ④ 受入事業所開拓 | 就労体験受入先事業所開拓 | (A)随時　定期的<br>(B)受入企業先<br>(C)職員 2 名 | (D)(E)対象の若者　不特定多数 | |
| ⑤ 交流会 | 全体交流会（当法人利用者、職員、ボランティアの方が集まり、交流を深める会 花見、バーベキュー、クリスマス会など） | (A)通年<br>実施回数 5 回<br>(B)地域の公民館、安積歴史博物館、公園など<br>(C)職員 9 名 | (D)対象の若者、ボランティア、地域の方々<br>(E)当法人利用者　実人数 22 名（延べ 62 名）参加 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | エンカレッジ講座（午後）<br>ゲームやレクリエーションなどを通じた集団活動や人馴れの活動 | (A)通年　週1回2時間開催<br>実施回数30回<br>(B)安積歴史博物館、公民館、当法人事務所など<br>(C)職員2名、外部講師1名 | (D)対象の若者、<br>(E)実人数16名（延べ196名） | 18,252 |

(2) 支援者育成及び地域社会との連携事業

| 定款の事業名 | 事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (2)支援者育成及び地域社会との連携<br>① 支援者の育成･啓蒙活動 | ホームページ・SNS（Facebook）　更新 | (A)随時<br>(B)当法人事務所<br>(C)職員4名 | (D)(E)不特定多数 | 260 |
| | 外部向けニュースレター（いっぽ通信） | (A)2回発行<br>(B)当法人事務所<br>(C)職員2名 | (D)各連携機関約430部発送<br>(E)一般、支援者、就労体験関連企業等 | |
| ② 家族会 | 保護者会 | (A)2回（第1回:令和2年9月26日、第2回:令和3年3月6日）<br>(B)第1回:永盛地域公民館、第2回:安積歴史博物館<br>(C)職員6名 | (D)対象の若者の保護者・家族<br>(E) 保護者24名（第1回9名、第2回15名） | 41 |
| ③ セミナー･研修会の実施及び参加 | 若者の自立を考える親と地域のためのセミナーの開催 | (A)令和3年2月6日<br>(B)郡山市民交流プラザ（ビッグアイ7階）<br>(C)職員7名 | (D)地域住民、対象となる若者、保護者、支援者、企業関係者、行政関係者等<br>(E)セミナー参加者110名 | 306 |
| ④ 地域社会とのボランティア活動等 | 地域のお祭りやイベント等へのお手伝い参加 | (A)随時<br>(B)郡山市内<br>(C)職員2～4名 | (D)市民<br>(E)不特定多数 | 0 |

(3) 上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般

| 定款の事業名 | 事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (3)上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般<br>① 心のケアーに係るカウンセリング | ・ニートフリーター状態の若者又はその家族の相談窓口の設置（メール、電話、面談等）就職相談、カウンセリング、心のケアー等を行う）<br>手段：電話、メール、面談、家庭訪問 | (A)通年（随時）<br>(B)当法人の事務所<br>(C)職員3名 | (D)対象の若者及びその家族<br>(E)郡山市及びその近辺の住民、若年無業者・保護者、当法人利用の若者約30名・保護者 | |
| ② 就職に係る相談業務 | 履歴書作成指導、面接練習等 | (A)通年（随時）<br>(B)当法人の事務所<br>(C)職員3名 | (D)対象の若者<br>(E)当法人利用の若者 | 0 |

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

| 定款の事業名 | 事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 | 「こおりやま子ども若者ネット」の参加　郡山市及びその近辺の子ども若者支援団体のネットワークへの参加 | (A)定例会議（車座会議)に原則月1回参加<br>(B)郡山市内<br>(C)職員1～2名 | (D)対象の若者、地域住民<br>(E)同ネット参加者、毎回約15～20名 | 0 |
| | 郡山市農福連携推進モデル構築事業への参加（コーディネート業務のサポート） | (A)随時<br>(B)郡山市及びその周辺<br>(C)職員3名 | (D)対象の若者、農業者、福祉事業所<br>(E)郡山市及びその周辺の農業者、福祉事業所、就労弱者（障害者やひきこもり経験者など） | 1,980 |
| | 開成山公園 Park-PFI 事業に関してNPOや企業との連携 | (A)随時<br>(B)郡山市内<br>(C)職員2名 | (D)郡山市民<br>(E)不特定多数 | 0 |

以上